

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 千葉県立印旛特別支援学校 (※正式名称を記載)

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>

中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校

教員養成大学  専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫 )

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 270 - 1605

千葉県印西市平賀 1160-2

E-mail inba-sh@chiba-c.ed.jp

Website https://cms2.chiba-c.ed.jp/inba-sh/

幼児児童生徒数 男子 149名 女子 69名 合計 218名

幼児・児童・生徒の年齢 6歳～18歳

## 2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、ESD を地域との交流と捉え、ESD の実践を通して他者と関わる力の育成を目標とした。

具体的には、「地域で生きていく学習」を柱に、①居住地校交流に係わる活動、②地域との交流に係わる教育、③近隣の大学との交流に係わる学習、④安全・防災に係わる学習を行った。

### ① 居住地校交流に係わる活動

小、中学部の児童生徒から希望を募り、居住地校交流を積極的に行った。年に 3 回程度、児童生徒の居住地にある普通小学校、普通中学校に出向き、半日から 1 日程度の長さで一緒に授業に参加した。「同じ地域に生活する互いを知る」ということができる有意義な活動であった。

### ② 保護者、地域、福祉サービスとの交流に係わる教育

本校では毎年 10 月に「いんば祭り」という全校行事を開催している。小学部の児童は劇の発表を、中学部と高等部は作業学習で製作した作業製品を販売する

という活動をそれぞれ行った。小学部の児童は繰り返し練習した成果を発揮する場と同時に、保護者や地域の方々に見てもらえる良い機会となった。中学部、高等部では製品を丁寧に作るだけでなく、接客の練習を重ねて当日の販売会に臨んだ。作業学習を通して学んだことだけでなく、実際のやりとりから生まれる喜びを感じることができた機会となった。地域の方々が訪れ、学校での学習や取り組みを知って頂ける機会になり、卒業生が就労している福祉サービス等の団体も製品や食品を販売しながら多くの人と関わりを持つことができた。

### ③ 近隣の大学との交流に係わる学習

中学部の生活単元学習では、中学部の生徒と学区内地域にある大学の学生（順天堂大学）とともに「野外活動しよう」という単元を取り組んだ。テントを張ったり調理をしたりして、互いを知る機会になったと同時に、本校生徒たちにとっては家族や福祉サービスの方々以外と関わる貴重な機会となった。

### ④ 安全・防災に係わる学習

さくら分校では防災学習を、より身近に、より現実的に考える学習の機会として、「防災の学び」に取り組んだ。1日かけての学習の中で、全校生徒でグループを作り、①避難所での暮らしを考える授業、②災害非常食として、ハイゼックスを用いた炊き出しや、缶詰のオイルを利用したランプ作り③校内の担架に乗ったり運搬したりの体験や、毛布を利用する緊急担架の作り方や衛生面の授業④災害伝言ダイヤル171（当日は訓練解放日）を利用して、自分のメッセージを録音したり聞いたりする授業⑤KJ法を用いて、災害時当日の避難や対応の流れをグループ内で話し合った。一日を通して防災をキーワードにしていく中で、生徒同士で自然と会話が生まれ、また、家に帰って家族と171の練習をする、避難所について話し合う等の広がりが見られた。



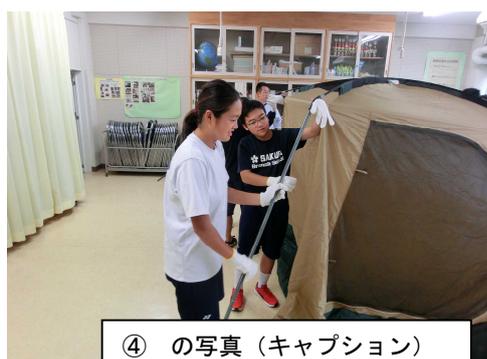
① の写真 (キャプション)



② の写真 (キャプション)



③ の写真 (キャプション)



④ の写真 (キャプション)

## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

#### ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input checked="" type="checkbox"/> 17. その他(交流学习)		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

#### ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(生活単元学習)	

#### エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

書籍 全日本特別支援教育研究連盟(2017), 生活単元学習 春夏秋冬 東洋館出版社
---

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

加盟承認が年度末であり、すでに新年度の準備は進められている時期ではあった。そのため、まずは校長の「持続可能なことから始める」の考えのもと、すでに教育課程に位置づけられている、長年学校が取り組んできている、交流及び共同学習を中心に学校間交流や居住地校交流、学校行事（いんば祭りやクリーンいんば）をとおした、地域との交流に視点をあてて取り組んできた。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

上でも記したが、本校のユネスコスクール加盟承認が平成29年3月14日と、新年度の準備がほぼ終了した時点での加盟となった。急遽、校務分掌に担当教諭を位置付けた。組織体制としては、十分ではなかったが、プレート到着とともに学校長から説明があり、「まずはできることから始める」との確認を全教職員で行った。その後担当教諭が参加した、「韓国教職員招へいプログラム」や「特別支援学校ESDフォーラム」等について全教職員に報告し、共通理解を図った。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

担当教諭から、次年度に向けたアンケートを全教職員に実施し、次年度の取り組み方法や方向性を全教職員で共通理解した。また、学校評価の関係者評価として開かれた学校づくり委員会をとおして、PTA会長、教育委員会指導主事、高等学校長、学識経験者から今年度の本校のユネスコスクール活動についての評価をいただいた。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

ユネスコスクール加盟 1 年目の今年度は、加盟に至るまでの本校の活動や取り組みをまとめたり、行事の写真を使って本校の取り組み紹介映像を作ったりした。それらを「多文化共生のための全国特別支援学校 ESD フォーラム 2017」等で発信した。それにより、本校の ESD を交流として捉えるという活動に好意的な意見を頂いたり、「より広く発信できるように方法を考えると更に面白いのではないか」というアドバイスをして頂いたりした。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD 活動支援センター、ESD コンソーシアムとの連携など)  
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

近隣にある順天堂大学との関わりを多く持つことができた。小学部は大学の学食に行き、学校外で食事をする練習に取り組んだ。中学部は、野外ゼミの学生と一緒に生活単元学習の授業に取り組んだ。高等部では、主に清掃活動の練習をする総合サービス班が順天堂大学のキャンパス清掃を行った。どの学部でも、将来を見据えた時に必要とされる活動を大学の協力の下、行うことができた。大学生も、子供たちとの関わり方や理解しやすい伝え方を考えたりするなど有意義な時間となった。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

今年度、国内外のユネスコスクールとの交流は無かった。しかし、本校のユネスコスクール担当者が韓国政府日本教職員招へいプログラムに参加したこともあり、担当者と訪問した韓国の学校間でのやりとりができた。今後はそのような関係を発展させていけたらと思う。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調した  
域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

「ユネスコとは何か」から始まった活動であったが、職員間での話し合  
いや会議を通して本校の行事や取り組みをホームページで発信していくと  
いう活動の方向性を建てることができた。外部との関わりのある行事では、  
行事終了後に職員へ「～他者との関わりという視点から～児童生徒の良か  
った所、良かった変化」というタイトルでアンケートを取った。全学部か  
らそれぞれの児童生徒のポジティブな変化を知ることができたとともに行  
事のメリットや意義を考える機会となった。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

「これまで行ってきた活動を継続し、取り組みや良さを発信する」とい  
う活動に取り組んでいく。

平成30年度の第一回職員会議において、対象となる行事や取り組みの  
一覧を提案する。それらの行事や取り組みが終了し次第、指導や引率をし  
た職員を対象に、「～他者との関わりという視点から～児童生徒の良か  
った所、よかった変化」というタイトルのアンケートを取る。

アンケートはユネスコ分掌の担当者でまとめ、結果を職員間で回覧する。  
また、学級通信のようにアンケートで得られた声だけでなく行事や取り組  
みの様子が見える写真を入れたものを作成、その後は本校ホームページに  
て公開するという活動を行っていく。